

特活塾通信Ⅲ

特別活動研究会 会長 鷲田 裕
松陽小学校 校長
羽束師小学校 教頭 内野 英教

令和5年3月3日(金)第3回特活塾が開催されました。

参加人数 28名

学級開きに使える！アイスブレイク 神川小学校 鈴鹿先生 村中先生



「キャッチ」



「誕生日チェーン」



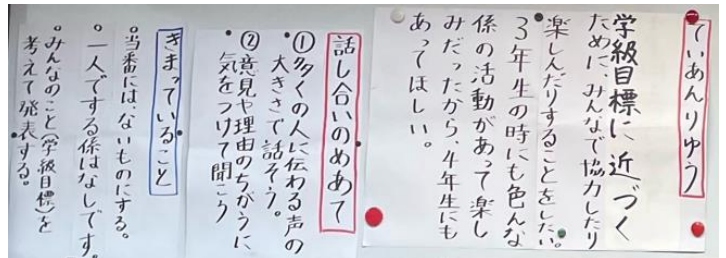
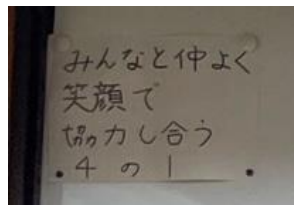
「友だちビンゴ」

参観した先生方より

- ・すぐに使えるアイスブレイクをたくさん知れてよかったです。
- ・レクリエーションから始まり、かたくなならない雰囲気をつくってください、楽しく勉強ができました。

模擬授業(4年生)自分たちのクラスが楽しく、よりよくなるような係を話し合おう

小栗栖宮山小学校 沖 一真先生



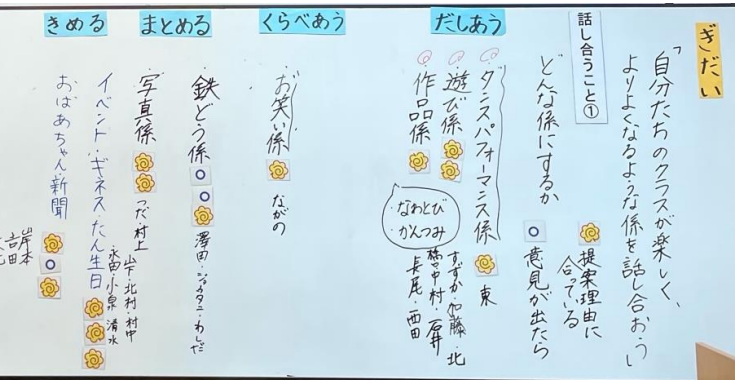
適宜、授業者が助言をします。

だしあう場面では、「遊び係」「作品係」「鉄道係」「写真係」・・・などなど、理由を加えて、様々な係が挙げられました。

「くらべあう」「まとめる」場面では、時に、それぞれの意見がぶつかることも・・・



そんな時こそ、みんなで納得できるまで話し合っていました。



それぞれが、じっくり考えて、どの係にするか決めました。

【板書計画】

【司会グループを経験した先生方からの感想】

司会: 今問い返しをしないといけないと思うが、即座にどんな言葉を返したらよいか難しい。
 児童の方はばかりを見すぎて、書記の動きを見ていなかった。
 授業者のフォローがあると、とても安心する。
 書記: 話を聞きながら書記をするのは難しい。
 ※子どもが運営していくには、積み重ねが必要だと感じた。

【参加して下さった方からの感想】

なかなか意見の言えない子どもや、こだわりのある子どもなど、様々な子どもがいるからこそ、意見が広がったり、まとまっていって行くのではないかなと思いました。普段の授業とは違って、子どもの個性や良さがたくさん出ると感じました。

4月当初から使えるというテーマ設定が大変有難かったです。特に1ヶ月後に新学期が迫った今だからこそ、今日の学びを生かそうと思えました。学んだことをすぐ実践できることが嬉しいです。

子どもの気持ちを実際に体験しながら、授業の流れも見ることができたので、より多くのことを学ぶことができました。子どもの意見を引き出しながら進めていくのは難しいなと改めて感じました。

沖先生、とても素敵な授業をありがとうございました。時間管理の難しさを感じましたが、先生のように次へつなげる声かけや子どもたちへの確認を大切にして、私も学級開きをしていきたいです。また、司会グループさんを信頼して任すことがとても大切だと感じました。私も、先生のようになるべくしゃべらず学級会を進められるようになりたいです。



Q&A 特別活動研究会の先生方より 特活塾参加のみなさんへ



- ① 定員を決めたときにじゃんけんはありますか。多数決で決めないということをお考えとなしですか。
→じゃんけんよりは話し合いかと。中学年以上であれば、過去にやったことがある係が中心となると思いますが、その時に何人ぐらい必要だったかを話し合わせて定員をきめたらいいと思います。
→全員受け入れて、役割や内容で分類して行っていくとよいと思います。
→じゃんけんをせずに決められる方が良いです。具体的にどのような活動になるかをそれぞれの係について想起させ、自分の中でやってみたいことや係をいくつか考えてからどの係が良いかを選ばせています。偏りがあるときに、「自分はこれもやってみたいから〇〇に変更する」ともう1つの係に移ったり、「〇〇さんとは普段関わりが少ないから、係の仕事をして仲良くなれるといいなと思う」と変更したりするなど、そこにも心の動きやドラマがあるように思います。
- ② (係が)一人のとき、どうやって、さいご決めますか。
→私の場合は、係の最低実施人数と最高人数を決めてしまいます。そのうえで最低人数以上最高人数未満になるように相談しながら係を決めています。
→多い係から移籍してくれる人を募るか、一人になってしまった子に他にしたい係はないかを聞きます。
→どうしても残したい係であれば、残してチャレンジしてみます。その時には、一緒にやってみたい人(サブメンバー)がいれば掛け持ちありにして、係活動の中での協力の場面を作ることもあります。そして、第1期が終わった時点で振り返りを行い、今後継続するか否かを学級みんなで再度考えて第2期にいかします。
- ③ きめるとまとめるのちがいがいまいちわかりませんでした。まとめるの段階できまっている気がしました。
→比べ合いながら決めることもあると思います。きめるはある程度話し合いがすんでから「これでいいですね」みたいな確認のつもりでいいと思っています。
→「まとめる」は複数の意見を合体させる時間ではなく、話し合いを収束させていくという意味での「まとめる」です。「きめる」は複数の考えの中から集団(学級)としてよりよい決定を行うものです。つまり①「出し合う」「比べ合う」「まとめる」②「出し合う」「比べる」「決める」の3つの段階を経て合意形成を図ることになります。(今回の模擬授業では少し混同があったかも知れません)その上で、話し合いは生き物なので、比べながら決めたり、まとめたりするなど、グラデーションのようになりながら決まっていくこともあります。
- ④ 係を作った後に活動が停滞してしまうので、どのように担任が働きかけたらいいのかもっと知りたいです。
→週ごとの計画表などをつくってそれをもとに振り返りをする時間をとるといいと思います。
→学級活動(3)イを取り扱うこと(実践報告あります。)や、参画のヒントを常々送ることが必要です。
→毎週や隔週の帯時間に「○曜日は係ミーティング」などを決めてルーティーン化してしまう方が取り組みやすいです。1月に1回(難しければ2月に1回)くらいリーダーミーティングを行って振り返りをする、次の月に必要なことが出てきやすいです。その際、カレンダーを使ってどんどん書き込むようにすると、係以外の子ども達も楽しみにできたり、その様子を見ることで仕事の必要性ややりがいを感じたりできています。
- ⑤ 単級での年度はじめ、おすすめのレクやアイスブレイクがあれば知りたいです。
→ぜひこれからも特活塾に参加してください♪

⑥ マジック係が板書から消えましたが、提案した本人がいいと言っている、悲しいと思っている子どももいると思うので、消すことに関してはよいのでしょうか。

→短冊になっていれば消すよりも下にさげたり、端っこに寄せたりすることで消すことはなくなりますね。今回はホワイトボードに直接書いたので、消してしまっていました。

→板書がいっぱいになって分かりづらい時には、整理して考えられるようにすることはあります。場合によってはカードを外すこともあります。カードを取り去るのではなく、少し下に下げる形にしてどの子の思いも大切にできるように配慮しています。

⑦ 係活動と当番活動の違いの説明は第1回目に担任の先生がお話されているのでしょうか。今回の第2回目の学級会でも、一番最初に違いを伝えたほうがいいのか、教えてほしいです。

→教師の話の中で入れてもいいと思います。

→子ども達には、「なぜ係活動をするの？」という問いかけから毎年スタートしています。学級会で係決めをする際には、話し合いに入る前の「先生のお話」のタイミングで確認しておきます。

⑧ 提案理由にあっているのか決めるのは書記なのでしょうか。

→基本は黒板書記の仕事だと思っていますが、「司会グループ」なので、判断に迷えば司会グループで話し合ってもいいと思います。

→今回はその形でしたが、そうでない場合もあります。

⑨ 意見を出して花丸にならないと悲しいと思っている子への対応について。

→最初の段階で何が花丸・何が○なのかを明確にして、全員の共通理解が必要です。

→提案理由に合っている意見かでマークを変える方法（今回の模擬授業のように）もありますが、そればかりが正解ではないので、学級や発達段階の実態に合った形を選んでください。意見が出たところに種類のマークをつけたり、出てきた意見の核となる言葉を黒板に書いたりする方法もあります。自分の意見がどのように受け止められるかはどの子ども気になるところですので、子ども達任せではなく、状況に応じて教師の介入が必要です。教師自身が認める・受け止めるような雰囲気と声掛けをするのはもちろん、学級会以外の場面でそのような学級集団づくりを日々行うことで、「言えた意見や思いは全部を大切に認め合おう」という前提が生まれ、ケアやフォローにつながっています。